

## 第5節 3日目：9月7日（月）：泊～魚津 曇り

2020年9月7日（月）曇り空の中、糸魚川・富山の旅の第3弾は、泊から魚津までの営業キロ 23.6 kmに挑戦する。今回の旅で本日は、富山駅を8時とゆっくりした時間帯であった。それ故、朝食をとり、ニュースなどを聞いて、窓いだ後のスタートとなる。泊行きの車両は通学の高校生などで満員電車の状態であった。しかし、魚津駅までで乗客の大半が下車し、それ以降の車内はまばらな状態となる。



※東横イン、富山駅

泊駅は、「あいの風とやま鉄道」と「えちごトキめき鉄道」の乗り入れ駅であった。それ故、先程乗って来た車両は、折り返して高岡行となった。同じホームの糸魚川駅方面よりには、「えちごトキめき鉄道」の新井行が停車していた。あいの風とやま鉄道は、駅の随所の掲示板に「青春18きっぷが利用できない」旨があった。また、この鉄道沿線は、どの駅もバスモが使用できるよう近代化されていた。



※あいの風とやま鉄道、えちごトキめき鉄道



※泊駅、泊駅界隈

泊駅から魚津駅までの到着時刻は次の通り。

泊(9:02)～入善(10:17)～西入善(12:00)～生地(13:20)～黒部(14:28)～魚津(16:32)

①泊駅前を種々のアングルからデジカメに収め、5.2 km先の入善駅を目指す。9時35分、万歩計で219歩ある赤川橋（小川）を渡る。その先で朝日町から入善町となる。10時17分、座王神社で本日の旅の安全を祈願する。10時37分、第4北陸街道踏切を横切り、鉄道の左側となる。それにしても入善市街の看板を見てから入善駅は遠かった。やっと10時17分入善駅に到着できる。



※赤川橋、入善駅への路、粹な松



※駅遠し、座王神社、入善駅近し



※入善駅

②西入善駅の道筋は、鉄道に沿って平坦な農道が続いていた。辺りはまもなく米の収穫を迎える田圃道であった。11時11分、糸魚川方面の電車と対面する。11時26分、村社神明社前を通過。11時47分、いつのまにか晴れから曇り空となり、11時53分、若干ポツリと水滴を感じる。しかし、雨とはならず暫くして曇り空になりホットする。12時、西入善駅に到着する。



※村社神明社、鉄道に沿った農道を歩く、西入善駅

③12時8分、新村踏切を横切り鉄道の右側となり、県道2号線（魚津生地入善線）を歩く。12時29分、入善町下飯野を通過。12時36分、黒部川扇状地湧水公苑前を通過。12時51分、万歩計で876歩ある下黒部橋（黒部川）を渡る。川の向こうには黒部の山々が見えて来る。橋を渡ると入善町から黒部市となる。いつの間にか薄日となる。生地駅には13時20分到着。駅前にはコートの少女、とやまの名木清水、水辺の風物詩（手作り郷土賞）があった。



※新村踏切、黒部川扇状地湧水公苑、下黒部橋



※生地駅前、生地駅

④13時30分、再度ポツリと水滴を感じるが、曇り空のままで推移する。13時38分、第2生地踏切を横切る。14時7分と14時15分、二つの道路下を潜る。そして、14時21分、富山地方鉄道下を潜る。ここから富山駅にかけ、地鉄とあいの風とやま鉄道の2社が並走するので、地鉄鉄道つたい歩きにならないよう細心の注意を要した。14時28分、黒部駅に到着する。



※あいの風とやま鉄道の車両、地鉄の線路



※黒部駅、黒部駅前

⑤黒部駅前はYKK 黒部牧野工場などの企業が鉄道に沿っており、鉄道から大きく迂回を余儀なくなれた。15時、60歩ある黒瀬川を渡る。15時5分、第3北陸街道踏切を渡ろうとするが、地図を確認した結果渡らず。15時10分、たいえの里前を通過。15時20分、田家交差点で幹線道路（県道150号線：魚津入善線）に合流する。15時23分、120歩ある布施橋（布瀬川）を渡る。橋を渡ると黒部市から魚津市となる。しかし、ここから魚津駅は遠かった。歩いても歩いても魚津駅の姿は見えず。15時43分、228mある片具大橋（392歩）を渡る。15時52分、魚津市西尾崎を通過。そして、やっと本日の終着駅の魚津駅（16時32分）に到着する。



※YKK 黒部牧野工場、黒瀬川、金太郎温泉の看板



※片具大橋、魚津駅への標識登場



※魚津駅

⑥運よく10分の待ち合わせで富山駅へ。16時42分と下校時間帯であったため、沢山の高校生の姿があった。ホテルで汗を流したあと、ホテルで紹介されたもう一つの居酒屋”だるま亭”で、刺身盛り合わせと飲み比べ（立山、満寿泉、三笑楽）を味わいながら本日の疲れを癒す。二人の富山大学在学中のアルバイトの若者と色々世間話をする機会があり、楽しいひと時を過ごすことができる。感謝また感謝の一日であった。



※魚津駅、薬売り像がある富山駅



居酒屋”だるま亭”、飲み比べで乾杯！！

## 第6節 4日目：9月8日（火）：石動～富山 晴れ



※早朝の東横インと富山駅

2020年9月8日（火）晴れ、糸魚川・富山の第4弾は、あいの風とやま鉄道の石動（いするぎ）駅から富山駅までの営業キロ34.8kmに挑戦する。今回の旅は、営業キロ35kmクラスなので、歩きに相当負荷を要することを想定し、当初予定して時刻（富山発6:48）より2本早い始発の電車（富山発5:31）で臨む。結果的に大成功であった。高岡駅界隈と呉山越えで手こずり、想定の時間より踏破に時間を要したからだ。12時間要し、明るい内に何とか富山駅に到着できた。真夏のウォーキングは熱中症に注意を要するが、反面日照時間が長い。その分営業キロを長く挑戦できる。日没すると、鉄道や電柱といった”鉄道案内人”の機能を活用できない。また、暗闇になると不案内な土地は様々なリスクが高くなる。



富山駅、石動駅



早朝3時過ぎに起床し、本日の準備をする。昨日の流れとは大違いであった。本日のスタート駅は、2年前の8月1日（水）、石動（いするぎ）駅から金沢駅まで営業キロ24.6kmを踏破する際第1歩とした。2年前の石動駅は工事中であった。また、石動という駅舎名がなかった。それが、石動という駅舎名を入れ、近代的建物に生まれ変わっているのに驚いた。本日の石動駅は2年前の繋で、富山方面に向かっての第1歩となつた。

石動駅から富山駅までの到着時刻は次の通り。

石動（6:17）～福岡（8:12）～西高岡（9:20）～高岡やぶなみ（10:33）～高岡（11:46）～越中大門（12:57）～小杉（14:05）～呉羽（16:25）～富山（18:06）

①石動駅を充分に堪能して、国道8号線を歩き福岡駅を目指す。6時40分、郷社神明宮に本日の安全を祈願する。6時43分、万歩計で285歩ある小矢部川を渡る。7時4分、加越能バスの芹川バス停前を通過。7時31分、小矢部市から高岡市となる。7時43分、新潟285km、富山39kmの記した道路標識前を通過。この標識を見て、改めてこれから富山までは相当遠いと再認識する。8時6分、大滝交差点で国道から脇道に入る。8時12分、駅舎に福岡町観光物産館がある福岡駅に到着する。掃除をしていた私と同じ位の年恰好の女性と立ち話で数分世間話をする機会を得る。これが、旅の楽しみでもある。少し元気をもらった。



郷社神明宮、小矢部川



福岡駅

②8時37分、新潟 282kmと記した地点を通過。道なりに歩いた先に西高岡駅があった。ここでも、私と同じ年恰好の駅員さんと話す機会を得る。ここでも元気を頂く。



※福岡駅、遠くから見た西高岡駅、西高岡駅

③西高岡駅から高岡やぶなみ駅への道のりは、明神橋から田圃道などで相当大回りを余儀なくされる。何とかこれまでの第六感を働かせ、10時33分到着できる。



※明神橋、石名瀬踏切（渡って引き返す）、高岡やぶなみ駅



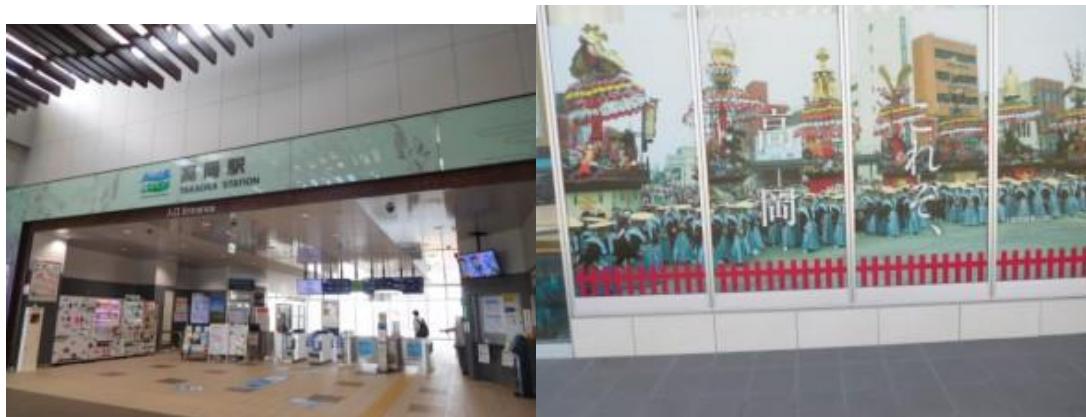
※高岡やぶなみ駅、高岡駅への路（迷路に入る）

④高岡やぶなみ駅から高岡駅にかけては、路なき路をつないで必至に歩く。それ故、地元の方に多数お世話になり、やっと11時46分到着できる。しかし、この区間はどう歩

いたのか残念ながら再現できない。メモ帳には、「天満宮 11時2分参拝。11時16分、横田橋（千保川）を渡る。」しか記録がない。この駅で、氷見線と城端線が繋がっている。高岡駅は近代的なビルの中にありビックリした。また、市電があるのにもビックリ。



※光線の下限で夜のようになった市電、高岡駅



※高岡駅

高岡駅界隈にある高岡大仏は、学生時代旅行で訪れたことがあるが、パニック状態が続き、高岡大仏を参拝する余裕はできず。また、昼食をとるのに、時間よし、場所よしの絶好のチャンスであったが、上手く流れに乗れずタイミングを逸す。

⑤高岡駅からは、せめて氷見線や城端線方面に誤って行かないよう細心の注意を払う。12時2分、氷見線の第1定塚踏切を横切った先に高岡市立高陵中学校があった。12時21分、蓮花寺交差点で県道73号線に合流する。12時31分、高岡市から射水（いみず）市となる。12時35分、万歩計で772歩ある大門大橋（庄川）を渡る。12時57分、越中大門駅に到着する。



※第1 定塚踏切、高岡市から射水市へ、庄川



※大門大橋、越中大門駅

⑥小杉駅への路は、当初は小島踏切を横切って出るか、300m位道なり歩いた先の野田踏切を横切って出るか迷う。小島踏切を横切った先は遠回りになると察知し、引き返し野田踏切を横切ることにする。結果大成功であった。13時22分、大島小学校前を通過。13時43分、北陸新幹線下を潜る。その後に本開発バス停（地鉄バス）があった。小杉駅には14時5分到着。ここから少し行った先で、ラーメン専門店”ごま咲”で遅い昼食（14時半）とする。女将さんや息子さんとここでも色々世間話をする機会を得る。その中で「日本縦断のネタ」はいい会話の材料となった。冷や麦チャシは最高に美味しかった。これまでの疲れを癒してくれた。



小島踏切と野田踏切



※小杉駅



※ごま咲、株式会社タダノ北陸支店

⑦15時11分、道路下を潜る。15時21分、射水市から富山市となる。15時26分、高松一高桜紫会元会長多田野榮氏の縁のタダノの北陸支店があった。15時37分、万歩計で70歩ある新堀川を渡る。左手には新幹線、右手には在来線が走っていた。16時5分、鉄道を跨ぎ、鉄道の右側となる。自分の想定した道筋と異なったため、2名の対面した人のお世話になり呉羽駅を目指す。16時16分、県立呉羽高校前を通過。下校時間帯であったので沢山の学生と対面する。道なりに700m位歩いた先に呉羽駅があった。この駅の傍には呉山が立ちはだかっていた。朝、電車の中で、この山をどう対処するかが今回の歩きで一番ネックとなった。地図をよく見ると、山と山の間に谷があり、鉄道から大きく迂回すればトンネルを通らず、富山駅に繋がっていた。



新堀川、呉羽駅、  
大関朝乃山の旗

⑧念のため、トンネルを経由して呉山を越えられるか否かを尋ねるが、地元の人から回答を得られず。代わりに県道44号に戻るのがベストの回答を得る。16時37分、県道44号線に合流する。呉山を分断したと思われる道筋を通過。17時30分、万歩計で793歩ある神通川を渡る。この川に掛けられた橋には、大学前の市電の線路があった、17時47分、諏訪神社に本日の安全のお礼参りをする。18時6分、富山駅に到着する。



※峠茶屋交差点、山の間から富山駅へ、大学前に向かう市電



※神通川付近の市電



※諏訪神社、終着富山駅

⑨ホテルには18時13分到着する。汗を流した後、一作日行った漁火に出向き、本日の達成に関し祝杯をあげる。隣に座っていた、富山在住の若い女性二人と話す機会を得、

楽しいひと時を過ごすことができる。今日も色々メイクドラマがあり、実りある一日であった。



※本日の締めは最高でした！！